

子どもの声を生かしたまちづくり

第10号

平成26年3月発行



この通信では、「子どもの権利」に関するさまざまな取組をお知らせします。

札幌市役所では、「子どもの権利条例」に基づき、子どもがさまざまな場面で意見を言う機会をつくり、「子どもの視点を生かすよう取り組んでいます。今回は、実際に子どもが関わった2つの事例を紹介します。」

生物多様性 子ども企画委員会



皆さんは「生物多様性」という言葉を知っていますか？

生物多様性とは、様々な生き物がいて、その生き物たちがつながり合っている状態のことをいいます。私たちはこの生物多様性から水や空気、食べ物など様々な恵みを受けて生活しています。しかし、今、私たち人間の影響で多くの生き物が絶滅の危機にあります。

この生き物たちを守るには、私たち一人ひとりの行動を見直す必要があります。

札幌市環境局では、私たちが毎日の生活の中で実践できる取組をまとめたハンドブックを作成するため、「生物多様性市民実践ハンドブック子ども企画委員会」の中学1・2年生11人のメンバーで内容を検討しました。



▲委員会のようす



子ども委員▶

昨年9月～12月に行った3回の委員会では、大学生サポーターからのレクチャーやグループワークを通じて生物多様性についての理解を深め、生物多様性を守るための行動例をリストアップしたり、多くの人の興味をもってもらえるようなアイデアを出し合いました。

委員会後、委員からは「生物多様性について家族や友達などに伝えていきたい。」「生物多様性を守るために自分も行動していきたい。」など、感想を聞かせてくれました。

委員会での意見をもとに作成したハンドブックは4月から区役所や区民センターなどで配布する予定です。



▲絵本の内容

ええ本(絵本) どうする？委員会



札幌市では、昨年12月に子どもの権利条約というきまりを多くの人に知ってもらうため、「おぼけのメールとすてきなまち」という絵本を作りました。

絵本は、主人公のおぼけのメールが、子どもたちといっしょにすてきなまちの設計図をつくるというものです。

「ええ本(絵本) どうする？委員会」は、実際の絵本の中に登場する設計図を考えるため、去年の8月にメンバーを募集し集まってくれた小中学生19名の委員会です。

委員会は、9月と11月の2回行い、絵本の作者もいっしょに「札幌がすてきなまちになるにはどんなものがあるといいか」や「こんな人がいっぱいいたらもつとすてきなまちになる」ということをグループに分かれて話し合い、アイデアやイラストを模造紙に書いて発表しました。

委員会からは、例えば、まちのゴミを食べてエネルギーに変える「ゴミタベル君」や、いじめをしてしまう弱い心がなくなる「いじめっこびょういん」というアイデアが出ました。

これらのアイデアやイラストは実際の絵本にも採用されました。ほかにもたくさんの意見やアイデアがあるので、ぜひ実際の絵本を手にとってみてください。

絵本は小学校の図書室や公立図書館などで見たり、借りたりすることができます。

絵本を通して、子どもの権利について、興味を持ってみませんか。



▲委員会のようす



子どもにとって大切な権利

- ・安心して生きる
- ・自分らしく生きる
- ・豊かに育つ
- ・参加する

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課
〒060-0051
札幌市中央区南一条東一丁目 大通バスセンタービル1号館3階
☎011(211)2942 FAX(211)2943
✉kodomo.kenri@city.sapporo.jp